

3 栗林公園

<https://www.my-kagawa.jp/ritsuringarden>

栗林公園は、長い年月をかけ、多くの人たちによって受け継がれてきたかけがえのない文化遺産。国の特別名勝に指定されている庭園の中で、最大の広さをもつ栗林公園は、緑の濃い紫雲山を背景に6つの池と13の築山を巧みに配し、江戸時代初期の回遊式大名庭園として、すぐれた地割り、石組みを有し、木石の雅趣に富んでいます。春のウメ・サクラ、夏のハナショウブ・ハス、秋のカエデ、そして冬のツバキと四季折々の風物にも恵まれ、ここに咲く花々は、一步一景といわれる変化に富んだ美しさを一層醸し出します。



DATA

開設面積：75.3ha(平庭部：16.2ha)

所在地：高松市栗林町一丁目20番16号

開設年次：明治8年3月16日(県立公園 太政官布告)

主要施設：商工奨励館、かがわ物産館「栗林庵」、讃岐民芸館、掬月亭(茶室)、日暮亭(茶室)、旧日暮亭(茶室)、香風亭、枕流亭、紫明亭、南湖、北湖、涵翠池、西湖、芙蓉沼、群鴨池、潺湲池、北梅林、南梅林、茶園、花しょうぶ園、根上り檜、鶴亀松、飛來峰、芙蓉峰、鴨場(鴨引き堀)

お問い合わせ先：香川県栗林公園観光事務所

TEL(087)833-7411 FAX(087)833-7420

香川県交流推進部交流推進課交流施設活性化グループ

TEL(087)832-3359

交通手段：JR高松駅から車で7分、こつでん栗林公園駅から徒歩10分、JR栗林公園北口駅から徒歩3分、JR栗林駅から徒歩20分、こつでんバス栗林公園前下車すぐ

駐車場：普通車62台、大型車13台

普通車：100円/25分(東門、北門前駐車場)

大型・中型：510円/30分(東門駐車場)

夜間宿泊料金：普通車1,360円、大型・中型3,130円

開園時間：4～5月 5:30～18:30 11月 6:30～17:00

6～8月 5:30～19:00 12～1月 7:00～17:00

9月 5:30～18:30 2月 7:00～17:30

10月 6:00～17:30 3月 6:30～18:00

休園日：なし

INFORMATION

入園料

個人大人 410円、小・中学生 170円

団体大人 330円、団体小・中学生 140円(団体：20名以上)

定期入園券(年間パスポート) / 1人用 2,610円 3人用 5,230円

入園無料日 / 1月1日、3月16日(開園記念日)



栗林公園の起こりは、16世紀後半、当地の豪族佐藤氏によって、西南地区に築庭されたことに始まるといわれ、1625年頃に当時の讃岐国領主・生駒高俊公によって紫雲山を背景に南湖一帯が造園され、現在の原型が形づくられました。

その後、1642年に生駒氏に代わって高松に入封した初代高松藩主・松平頼重公(水戸光圀公の兄)に引き継がれ、1745年5代頼恭公の時に園内六十景命名をもって完成し、明治維新に至るまでの228年間、松平家11代の下屋敷として使用されました。

明治8年に県立公園として一般に公開されるようになり、昭和28年には、文化財保護法による「特別名勝」に指定され、今日に至っています。



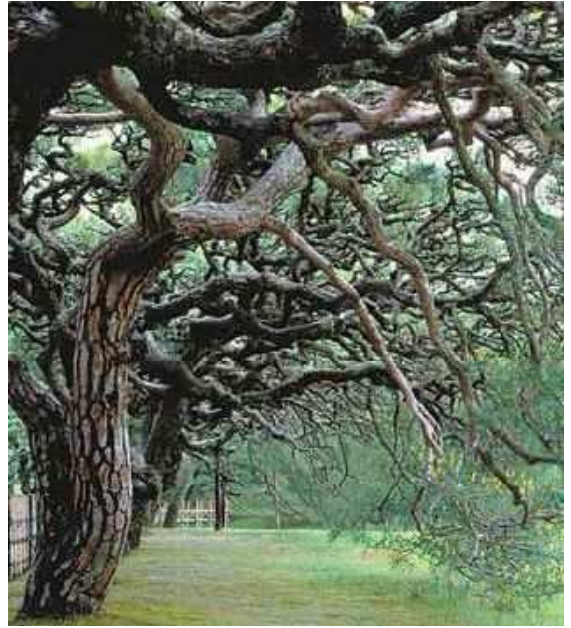
▲飛來峰からみた南湖全景。平成24年7月から周遊和船を運航。



▲明治時代に「香川県博物館」として建てられた「商工奨励館」



▲お茶を飲みながら休憩できる、歴代藩主がこよなく愛した数寄屋風書院造の「掬月亭」



▲藩政時代に植えられた讃岐の黒松で箱の形をしている「箱松」



▲春の桜、秋のもみじの時期を彩るライトアップ



▲かがわ物産館「栗林庵」
瀬戸内の気候風土に生まれ、文化、歴史、伝統に磨かれた自慢の県産品が勢揃い。



▲栗林公園古図（弘化元年/1844年）
※左図とは東一西、南一北の向きが逆になっています。

◀現在の栗林公園と古図を比較してみると、土地利用上の変化はあるものの、地割りはほぼ残されていることが分かります。